

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.11+	クライアント	瞬快がサポートしていないUEFIブートのPCに、瞬快クライアントをインストールした場合、瞬間復元機能が正常に動作しない状態であっても、問題が発生していることが通知されない。	UEFIブートのPCで瞬間復元機能が正常に動作していない場合、タスクトレイの瞬快アイコンが赤色になり、「瞬間復元ドライバが正常に動作していません。」のメッセージが表示されるように修正しました。	【レベル】 Ver.11 【グレード】 共通	瞬快クライアント機能をインストールする前に、瞬快ホームページから「瞬間復元機能動作チェックツール」をダウンロードし、事前チェックを行ってください。	既に、瞬快Ver.11の瞬間復元機能が正常に動作している場合、本修正を適用する必要はございません。
Ver.11i	システムリカバリ	機能追加	USBリカバリ機能の「Windows環境の設定(USBリカバリ用)」にて無線LANネットワークの設定に対応しました。	【レベル】 Ver.11 【グレード】 特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	2013年度上期 ESPRIMO、LIFEBOOK の新機種に対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 上、特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	Microsoft Office 2013 のアクティベーションに対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 上、特上	-	
	管理機能	機能追加	機器情報のインポート、エクスポートにて、システムリカバリの関連情報も一緒に処理できるようにしました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 上、特上	-	
	vPro	機能追加	AMT 9.0 に対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	-	
	ウイルス対策ソフト連携	McAfee VirusScan Enterprise 8.8 Patch3 がインストールされた Windows 8 または Windows Server 2012 に対して、瞬快クライアントもしくは瞬快コンソールをインストールすると、McAfee VirusScan Enterprise 8.8 Patch3 の問題により OS が起動しなくなる。	瞬快の提供しているドライバに GlobalSign によりデジタル署名されたものが存在しましたが、McAfee VirusScan Enterprise 8.8 Patch3 は GlobalSign によりデジタル署名されたドライバに対応していませんでしたので、瞬快ドライバのデジタル署名を VeriSign のものに変更しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	現象が発生した場合は、セーフモードでWindowsを起動し、次のコマンドを実行してください。(標準インストールの場合) 【32ビット】 C:\Program Files (x86)\Syunkai Product\Agent\DCPRG\kfssetup.exe -Uninstall 【64ビット】 C:\Program Files (x86)\Syunkai Product\Agent\DCPRG\k64kfssetup.exe -Uninstall	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、Googleドライブへのファイルの移動や、Googleドライブ内でファイルのリネームができない。	プログラムを改修しました。ただし、Googleドライブとの同期処理が遅いという問題が残っています。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	Googleドライブとの同期処理が遅い現象が発生した場合は、一度Windowsからログオフし、再度ログインすることで現象が改善する場合があります。
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがインストールされたPCで、瞬快の設定情報の取得に失敗し、設定内容が変更されてしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、ネットワークドライブの割り当てを行ったドライブに対してシンボリックリンクの作成を行いファイルの作成を行うと、0x24 や 0x50 のSTOPエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	共通機能	製品グレード(特上、上、並)が異なるクライアント同士は機器管理・操作できない。	プログラムを改修しました。製品グレードの異なるクライアントであっても管理・操作が可能となります。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
サーバ	大規模のクライアント環境で大量の接続要求が集中した場合、サーバ負荷が高まり、サーバサービスが異常終了する場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	サーバサービスを再起動してください。		
管理機能	固定IPアドレスのクライアントに対して、機器のプロパティのネットワーク情報がDHCPに変更されてしまう。(クライアントに対して通信ができなくなる)	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	固定IPアドレスの機器の場合、プロパティ画面のOS情報タブにて「ネットワーク情報を更新しない」を指定してください。		
リモート画面操作機能	Windows XP かつ マルチディスプレイ環境の場合、モニタリングできなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	ディスプレイアダプタのハードウェアアクセラレータ設定を無効にしてください。		
リモート画面操作機能	複数PC操作の機器候補に下位バージョンのクライアントが含まれない。(下位バージョンのクライアントを操作対象とすることができない)	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし		
システムリカバリ	システムリカバリ機能の「ディスクイメージ配信」、「ディスクイメージ配信(端末設置後の後処理用)」もしくは「Windows環境の設定」サービスを実行した時、サービスがタイムアウトになる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11 【グレード】 上、特上	なし		
Ver.11m	運用環境	機能追加	Windows 8.1に対応しました。瞬快サーバ機能およびコンソール機能は Windows Server 2012 R2 にも対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	2013年度下期モデルの ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS に対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 上、特上	-	対応している機種名の詳細は、瞬快のホームページを参照ください。
	ウイルス対策ソフト連携	Symantec Endpoint Protection 12.1(SEP12.1)の仕様変更により、瞬快がSEP12.1がインストールされていることを認識できなくなり、ウイルス対策ソフト連携機能が動作しなくなる。また、SEP12.1の起動が正常動作しなくなる。	SEP12.1の仕様変更に合わせて、瞬快の処理を見直しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	SEP12.1の変更対策機能を無効にしてから、瞬快クライアントを修復モードに切り替えてください。	
	クライアント	瞬快クライアントに異常が発生し、タスクトレイの瞬快アイコンが赤色になった場合、瞬快クライアントは瞬快コンソールからの指示を受け付けられない。	瞬快アイコンが赤色でも、瞬快コンソールからの指示を受け付けるように改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	瞬快クライアントで発生しているエラーの内容によっては、指示通りに動作しない場合があります。

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	クライアント	UEFIブートのPCにて、瞬間復元機能に異常が発生した場合に、瞬快クライアントをアンインストールすると、OSが再起動を繰り返す状態になってしまう。	再起動を繰り返さないようにしました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	次のいずれかの操作で、修復無効モードへ切り替えを行い、瞬間復元機能の異常を解除してからアンインストールを行ってください。 ・瞬快製品DVDのTOOLフォルダ内の次のコマンドを実行する。 ChkMbr.exe /RESTORE ・OSのインストールDVDまたはシステム修復ディスクからPCを起動し次のコマンドを実行する。 bootrec.exe /fixmbr	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、Googleドライブの同期が正しく行われない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、ファイルの移動や変名を行うと、エクスプローラ上からファイルが見えなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作において、「リブアウト表示」からグループの再選択を行い遠隔操作に切り替えると、全台への遠隔操作ができなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	一度、「パネル型表示」または「L字型表示」に切り替えてからグループの再選択を行うことで回避できます。	
	リモート画面操作機能	瞬快クライアントにて、次のような事象が発生する場合がある。 ・ログオフ、シャットダウンができない/時間がかかる ・ログオンができない/時間がかかる ・PCのスリープ解除時に、PCが正しく動作しない ・アプリケーションが応答なしになる	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11 【グレード】 共通	「Syunkai Background daemon」のサービスを停止させてください。	
Ver.11n	システムリカバリ	機能追加	2014年度上期モデルの ESPRIMO、LIFEBOOKに対応しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 上、特上	-	対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、Symantec Endpoint Protection (以下SEP)と共存させた場合、SEPのエラーが表示されたり、イベントログにエラーが記録されたりする場合がある。これらの問題を回避するために、SEPの設定を変更する必要がある。	瞬間復元ドライバの復元方式を改良し、SEPの設定を変更すること無く、SEPが正常動作するようになりました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	瞬快のホームページに記載されている、SEPとの共存時に必要な設定を行ってください。	本レベルから、SEPはインストール時の初期設定のままで共存可能となります。
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントの動作モードの変更処理において、動作モード変更のためのOS再起動の処理に入った後でも、別の動作モードへの変更指示を受け付けることが可能となっており、これが実行された場合には瞬快の環境が壊れてしまう。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	瞬快コンソールからモード変更指示を行う場合などでは、先に実施されているモード変更処理が終了したことを確認してから実施してください。瞬快環境が壊れてしまった場合の対処方法については、瞬快のサポートセンターまでお問い合わせください。	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCで、稀にOSがフリーズ状態(マウスカーソルは動作するが、クリックしても反応しない)になってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	AMI BIOSの搭載されている一部の機種では、UEFIが有効である場合に瞬快クライアントを修復モードでインストールすると、OS起動時に「Init0 failed」のメッセージが表示され、OSが起動しなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	BISO互換モードでOSをインストールしてください。	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされたPCでは、Internet Explorer上でファイルのリンクをクリックして直接ファイルを開こうとすると、そのファイル名が2バイト系文字を含むロングファイル名である場合、ファイルが削除されている旨のメッセージが出て開けない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	添付ファイルをディスクに保存してから開くと、問題は発生しません。	
	瞬間復元ドライバ	HP社製の一部の機種のプレインストール環境では、不正なレジストリ(終端文字が無い)を含む状態となっており、この環境に瞬快クライアント機能をインストールすると、OS起動時に0x7BのSTOPエラーが発生し、OSが起動しなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	異常が発生してしまった場合の対処方法については、瞬快のサポートセンターまでお問い合わせください。	
	クライアント	ドメインに参加しているクライアントPCにてプライマリDNSサフィックスの設定を空にしていると、リモートログオンの処理に失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	共通機能	基本認証が必要なSMTPサーバに対して、瞬快のメール送信機能が対応していない。	ポリシーエディタで基本認証に必要な項目を指定できるように改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	瞬快コンソールがインストールされているPCをリモートデスクトップ接続すると、STOPエラーの0xe1 または 0x0a が発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	固定IPのクライアントPCに対してリモート画面操作機能からログオン/ログオフ/シャットダウン/再起動/メッセージ送信の指示を行う場合、名前解決によりクライアントIPを取得できない状況では処理に失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	Windows8.1のクライアントPCでは、切断されていたネットワークが復帰した後や、スリープから復帰した後、リモート画面操作機能が動作しない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	「Syunkai Remote Display Service」のサービスを、手動で開始させてください。	
	リモート画面操作機能	Windows8.1に瞬快コンソール機能をインストールした場合、「単一PC操作」から「クライアントのサービス再起動」を実行すると「要求された操作には管理者特権が必要です」のエラーになる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 共通	なし	
	資源配付機能	動作モードが修復モードであり、かつ、電源の入っていないクライアントPCに対し、スケジュール配付が実行された場合、修復モードのまま資源適用が行われてしまうことがあり、資源適用先が修復対象領域であった場合には、瞬間復元機能により、適用された資源が消えてしまう。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11以前 【グレード】 特上	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	システムリカバリ	LIFEBOOK A744/Hのディスクイメージ取得・配信を行う場合に、DR-DOSをブートエージェントに指定すると、「0 second Reboot」のメッセージが表示され、処理が止まってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11m以前 【グレード】 上、特上	ブートエージェントにWindowsPEを使用してください。	
	システムリカバリ	ディスクイメージ取得・配信の実施において、富士通法人向けパソコン用ドライバセットを組み込んだWindowsPEをブートエージェントとして指定すると、特定のLANDドライバを必要とする機種ではエラーになる。	富士通法人向けパソコン用ドライバセットに e1y6232.sys および e1k6232.sys を組み込みました。	【レベル】 Ver.11m以前 【グレード】 上、特上	WindowsPEに必要なLANDドライバを組み込んでください。	富士通機では、D5380、E8290、E8280、T8290、D5390、W380、W480、E780/A、P770/A、P770/B、T900/B、T730/B が該当します。
	システムリカバリ	サービスプログラムであるPXE Services (PXEService.exe)が、特定のバケットを受け取った場合にアプリケーションエラーになる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11m以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	クライアント台数が多くなると、システムリカバリコンソールの起動に時間がかかるようになる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11m以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	LIFEBOOK A744/Hのディスクイメージ取得・配信を行う場合に、DR-DOSをブートエージェントに指定すると、10Mbpsでリンクアップされる場合がある。	対応LANDドライバを組み込みました。 本対応を有効にするには、A744/Hに対してBIOSのアップデートも合わせて行う必要があります。次のURLからダウンロードして適用してください。 【32-bit環境用】 LIFEBOOK A744/H用 BIOS書換データ V1.08(32ビット版) http://www.finworld.net/cgi-bin/driversearch/drvdownload.cgi?DRIVER_NUM=E1017698&COLOR=1 【64-bit環境用】 LIFEBOOK A744/H用 BIOS書換データ V1.08(64ビット版) http://www.finworld.net/cgi-bin/driversearch/drvdownload.cgi?DRIVER_NUM=E1017699&COLOR=1	【レベル】 Ver.11m以前 【グレード】 上、特上	ブートエージェントにWindowsPEを使用してください。	
Ver.11p	瞬間復元ドライバ	機能改善	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードでインストールされた場合のディスクI/O性能を改善しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	-	
	リモート画面操作機能	機能追加	リモート画面操作機能で作成した「レイアウト」を、他のユーザと共用できる機能を追加しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	-	
	リモート画面操作機能	機能追加	リモート画面操作機能にて次の機能を追加しました。 ■画面転送機能にてコンソールのセカンダリディスプレイの画像をクライアントに転送する。 ■画面転送機能での画面転送先にクライアントのセカンダリディスプレイを指定可能とする。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	-	
	リモート画面操作機能	機能改善	無線LAN環境下でのリモート画面操作機能の描画性能を改善しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	2014年度下期モデルの ESPRIMO、LIFEBOOK に対応しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 上、特上	-	対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。
	システムリカバリ	機能追加	ARROWS Tab Q584/H において、システムリカバリ機能のイメージ取得・配信を可能としました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 上、特上	-	拡張ケーブルまたはUSB-LAN変換ケーブルによる有線LAN接続が必要です。
	マルチブート	動作検証	CentOS 6.5 および CentOS 6.6 での動作を確認しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライバ	ウイルスバスターコーポレートエディション(以降VBCorpと記載)との連携においては、ウイルスパターン以外のコンポーネントのアップデートが実行されるとVBCorpの動作に異常が発生するため、VBCorpの設定を変更する必要がある。	ウイルスパターン以外のコンポーネントのアップデートが自動的に実行されてもVBCorpが正常動作するようにしました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	本レベルから、VBCorp. はインストール時の初期設定のままで共存可能となります。
	瞬間復元ドライバ	ファイル・フォルダ単位の修復モードにて運用中に、コマンドシェル(コマンドプロンプト)上でDELコマンドを発行すると、削除対象ファイルが存在するフォルダの中の他のファイルまで一緒に削除される。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	DELコマンドではなく、エクスプローラーにて削除を行ってください。	
	瞬間復元ドライバ	ファイル・フォルダ単位の修復モードにて運用中に、Google社の写真管理用ソフト Picasa3 のアップグレードインストールができない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	パーティション単位の修復モードにて実施してください。	
	瞬間復元ドライバ	デフォルトプロファイルに特定のカスタマイズがされた環境において、ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中にWindowsへログオンすると、一時プロファイルでログオンされる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	瞬間復元機能が使用するワークファイルの削除に失敗し、「SCL00042 ファイルシステムの異常を検知しました...」のメッセージが出力されることがある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	次の2点の条件を満たす場合にファイルフォルダ単位の修復モードにすると Adobe Reader を起動できない、もしくは起動しても「応答なし」となる。 ・OS が Windows 8 または Windows 8.1 である。 ・Adobe Reader のバージョンが 11.0.09 または 11.0.10 である。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	Windows 8.1 の環境において、ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中に、修復対象フォルダ内に作成されたファイルやフォルダが見えなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	
	共通機能	メール送信機能にてSMTP認証が必要なメールサーバーを使用するとメール送信に失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	サーバインストール	「SQL Server Browser」サービスがインストール済みの環境に瞬快サーバ機能をインストールする場合において、「SQL Server Browser」サービスが停止していると「SQL Server Browser」サービスが無効になる。 このことで「SQL Server Browser」サービスを必要とするアプリが動作しなくなる可能性がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	「SQL Server Browser」サービスのスタートアップの種類を「自動」に変更してください。	
	リモート画面操作機能	リモート画面操作機能にて接続中のPCにリモートデスクトップ接続を行う場合において、クライアントがログオンされていない状態、あるいはクライアントが別のユーザーにてログオンされている状態のPCにリモートデスクトップ接続すると、リモート画面操作機能のモニタリングおよび遠隔操作ができなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	リモートデスクトップを切断し、クライアントにログオンしなおすことで回復します。	
	リモート画面操作機能	ネットワークが不安定な環境では、モニタリングもしくは遠隔操作を実施中に、画面がモノクロ表示となり、描画が更新されない状況となる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	クライアントの再選択操作(切断・再接続)で回復します。	
	リモート画面操作機能	クライアントOSが Windows 8 もしくは Windows 8.1 の場合において、Modern UI のスタート画面や Modern UI アプリケーション(ストアアプリ)が表示されていると、ブラックアウトロックが動作しない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	ディスク書き込み性能の低い環境では、ディスクイメージ取得にてタイムアウト終了する場合があります。	タイムアウトと判断するための閾値を下げ、なるべくタイムアウトしないようにしました。	【レベル】 Ver.11n以前 【グレード】 上、特上	ディスクイメージ格納先をウイルス対策ソフトのチェック対象から除外することで改善する場合があります。	
Ver.11p+	ドライバ	ウイルスバスターCorpと瞬快クライアントがインストールされたPCで、瞬快クライアントをファイルフォルダ単位の修復モードで起動すると、OS起動中またはログオン中にOSがフリーズする場合があります。	瞬間復元ドライバがVer.11nと同等の動作をするように、定義ファイルを修正しました。	【レベル】 Ver.11p 【グレード】 共通	なし	
Ver.11r	瞬間復元ドライバ	機能改善	より多くのUEFIの機器で瞬間復元機能が動作するように、瞬間復元ドライバに複数の復元方式を搭載しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	レガシーブートにてOSをインストールし直してください。	対象機種に最適な復元方式はUEFIチェックツールにて確認してください。
	瞬間復元ドライバ	ブート方式にWIMブートが採用されたPCに、瞬快クライアントをファイルフォルダ単位の修復モードでインストールすると、OSの起動が著しく遅くなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードにて動作しているPCにおいて、「SCL00042 ファイルシステムの異常を検知しました」のエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	修復無効モードに切り替えることで、一時的に問題を回避することができます。	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードにて動作しているPCにおいて、Windows フォトビューアーにて開いた画像を回転させると、ファイルが破損し開けなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	画像ファイルを右クリックすると表示される「右回りに回転」「左回りに回転」を使って画像を回転させるとファイルは破損しません。	フォトビューアーが画像ファイルを開く標準ソフトに設定されているのはWindows 7までとなります。
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアントがファイルフォルダ単位の修復モードで動作しているPCにおいて「Vector Works 2015」を起動すると、これを終了できない場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	サイレックステクノロジー社製「SX Virtual Link Display」がインストールされたPCにおいて、瞬快クライアントをファイルフォルダ単位の修復モードにすると、Windows 8のストアアプリとしてプレインストールされているカメラアプリが起動できず、「このWindowsのバージョンではカメラアプリは使用できません。」と表示される。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	Windows 8.1のカメラアプリでは問題は発生しません。	
	システムリカバリ	瞬快のシステムリカバリ機能にてネットワーク設定に失敗した場合、エラーで処理を停止せずに続行し、正常終了となっていた。	ネットワーク設定に失敗した場合は、直ちに処理を停止するように仕様を変更しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリサーバインストール	瞬快のシステムリカバリサーバの版数アップにおいて、古い版数をアンインストールして新しい版数をインストールすると、「コマンド処理中にエラーが発生しました。」のメッセージが表示される場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 上、特上	システムリカバリサーバのアンインストール後に、PCを再起動してから新しい版数をインストールしてください。	
	リモート画面操作機能	瞬快のリモート画面操作機能を使って、クライアントPCにファイルコピーを行うと、コピー終了後にクライアントPCが操作できなくなる場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	瞬快のリモート画面操作機能の単一PC操作を行っている際に、コンソール側でタッチパッドを使用して横スクロールを行うと、リモート画面操作のコンソールプログラムが異常終了する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11p+以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.11r+	WindowsUpdate連携	UEFIブートのクライアントPCにて、WindowsUpdate連携機能を使用すると、更新プログラム適用後に復元方式がB方式に切り替わってしまう。このため次のような事象が発生する場合があります。 ・瞬間復元ドライバが正常動作しなくなる。 ・OSが起動しなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r 【グレード】 共通	(1)瞬間復元ドライバが正常動作しなくなった場合は、修復無効モードに切り替えた後、本来の復元方式を選択してから修復モードに切り替えてください。 (2)OSが起動しなくなった場合は、OS起動前の起動デバイス選択メニュー(富士通製PCはF12キーを押下)から、ハードディスクを選択してOSを起動させ、(1)の操作を行ってください。	
Ver.11s	システムリカバリ	機能追加	Microsoft Office 2016(デスクトップ版)のアクティベーションに対応しました。	【レベル】 Ver.11r+以前 【グレード】 上、特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	2015年度下期 ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS、ARROWS Tab の新機種に対応しました。	【レベル】 Ver.11r+以前 【グレード】 上、特上	-	対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。
	瞬間復元ドライバ	Microsoft社製 Surface 3 において、修復モードにするとOSが起動しなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r+以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにおいて、瞬間復元ドライブのスタック消費量が多くなり、スタックオーバーフローによるSTOPエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	NEC社製PCの中にはUEFIチェックツールを実行すると、判定結果がA方式となるにも関わらず、A方式の修復モードにすると瞬間復元ドライブが正常に動作していない旨のエラーが発生する機種が存在する。	UEFIチェックツールを改修し、正しい結果(機能制限方式)を返すようにしました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 共通	エラーの発生する機種では機能制限方式の修復モードにしてください。	
	瞬間復元ドライブ	ファイル・フォルダ単位の修復モード中に、修復対象にしたFAT32のドライブ上でVisualStudio2010のVBのプロジェクトを作成し保存する、またはビルドすると0x23のSTOPエラーが発生する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 共通	NTFSのドライブにプロジェクトの作成を行ってください。	
	クライアント	Windows Updateを実行中は修復モードに変更できないよう制御しているが、Windows Updateにて要求される再起動を保留した状態では修復モードに変更できず、この場合、PCが再起動を繰り返す状態になる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 共通	なし	
	サーバ	瞬快サーバに数百台の瞬快クライアントを同時に接続すると瞬快サーバが異常終了する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	環境設定WizardでのWindows PEブートエージェンツの新規作成の画面にてサポート外としている「Windows PE 3.1 (Windows 7以前用) x64」が選択できるようになっている。	選択肢に「Windows PE 3.1 (Windows 7以前用) x64」が表示されないようにしました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 上、特上	-	
	システムリカバリ	瞬快コンソールでのクライアントグループの作成において、グループ名に半角カンマの文字を含めると、システムリカバリコンソール起動時にエラーが発生する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 上、特上	グループ名に半角カンマの文字を使用しないでください。	
	システムリカバリ	システムリカバリコンソールにてクライアントPCのコンピュータ名を変更した場合、変更前のコンピュータ名を使用して新しくクライアントPCを登録することができない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11r以前 【グレード】 上、特上	システムリカバリコンソールにて変更したコンピュータ名を、瞬快コンソールにて別の名前に変更することで異常は解消されます。	
Ver.11t	システムリカバリ	機能追加	2016年度上期 ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS、ARROWS Tab の新機種に対応しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 上、特上	-	対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。
	瞬間復元ドライブ	32ビットUEFIのPCで修復モードに切り替えると、OS起動直前の1～2秒の間、画面左上に瞬間復元ドライブのデバッグ用文字列が表示される。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダの修復モード中にPhotoshopで画像ファイルの保存を行うと、数回に1程度の確率で、保存したファイルのアイコンが表示されないことがある。 この場合も、保存処理自体は行われており、F5キーを押すことでアイコンが表示されるようになる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	エフセキュアのパターンファイルの情報取得処理がタイムアウトで失敗する場合があった。	タイムアウト時間を1秒から3秒に延長しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	スケジューラ	スケジューラ機能によるログオン処理のスケジューラでは、ドメインへのログオンが指定できない。	ドメインへログオンできるようにプログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	Windows Vista にて複数PC操作のレイアウト編集を実施した際、各クライアントをレイアウト編集画面で選択することはできるが、ドラッグアンドドロップで位置を変更することができない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集	利用情報収集機能の稼働チャートで、電源ON/ログオン/ログオフ/電源OFFを繰り返しているにもかかわらずPCがログオンし続けている状態で見えてしまう場合がある。	強制電源断など、PCの電源OFFが正しく検知できなかった場合は、その際の電源ON～電源OFFまでを稼働チャートに表示させないように改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	サーバ	瞬快サーバを複数アップした後にエクスポートしたデータを、新規インストールした瞬快サーバへインポートさせた場合に、瞬快サーバの版数は同じであってもデータが正しくインポートできない場合がある。	瞬快サーバを複数アップした場合と新規インストールした場合で、データの構造が同じになるようにプログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	クライアントPCのリモート登録(手動登録)では、コンピュータ名の先頭文字に数字が使えない。	コンピュータ名の先頭文字に数字を使うようにしました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリの実行結果ログの[CSV出力]を行うと、以下のエラーが発生する場合があります。 SRO00040 (X) ファイルへの書き込みができませんでした。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11s以前 【グレード】 上、特上	なし	
Ver.11u	システムリカバリ	機能追加	2016年度下期 ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS、ARROWS Tab の新機種に対応しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	-	対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。
	クライアント	機能追加	瞬間復元の簡単設定にて、ジャストシステムの ATOK 2016 に対応しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライブ	瞬快クライアントがインストールするPCにおいて、デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっていることを見落として修復モードへ変更してしまうと、OS環境に異常が生じる。	デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっている状態では、修復モードへの変更指示を受け付けないようにしました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっている状態で修復モードへの変更は行わないでください。	
	瞬間復元ドライブ	瞬快クライアントがファイル・フォルダ単位の修復モードでインストールされたPCでは、Windows8.1のフォトアプリにおいて、カメラで写真を撮影したり、外部媒体から画像のインポートを実行したりしても、その画像が表示されない。 また、ストアアプリの YouCam Mobile for FUJITSU でも、撮影した写真が表示されない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	修復モードに切り替えを行う前に、ユーザープロファイルが存在する場合は画像が表示されませんが、修復モードに切り替えた後に、ユーザープロファイルが作成される場合は、画像は表示されません。

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライブ	修復モードの状態が6ヶ月以上経過すると、通知領域のアイコンが正常に表示されなかったりクリックしても反応しない状況となる。	暫定対処として、修復モードへ切り替える際に、レジストリにキャッシュされている通知領域アイコンの情報をクリアするようにしました。 本対応により通知領域アイコンをカスタマイズしても修復モードに切り替えると初期値に戻ります。 通知領域アイコンをカスタマイズしたい場合はサポートセンターまでお問い合わせください。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	本製品DVDの以下のフォルダ内にあるスクリプト使ってキャッシュをクリアしてください。 Tool\Scripts\DeleteIconStreams Readme.txtを参照ください。	
	瞬間復元ドライブ	Symantec Endpoint Protection(SEP)がインストールされた次の環境の場合、瞬快クライアントをファイル・フォルダ単位の修復モードにすると、SEPのサービスが起動しない。 ・KB3170377 または KB3172614 の更新が適用されている 32bit の Windows8.1	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	修復モード中にI/Oエラーを検知すると瞬間復元ドライブ(skfl.sys)はエラーログをディスクのLBA33に書き込む。 MBRディスクのLBA33は未使用領域であるが、GPTディスクのLBA33はパーティションテーブルとして使用されており、パーティション125~128の情報が書き込まれる。 LBA33にエラーログが書き込まれると、次回起動時よりパーティションテーブル異常と判定し、ディスク異常と通知される場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	修復モードへの切り替え時にはディスク先頭領域をバックアップしており、修復無効モードへの切り替え時にはこれをリストアップしますので、通常であればLBA33のエラーログは残りません。	
	システムリカバリクライアントインストール	システムリカバリクライアントの、新規インストールや版数アップの処理が失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	なし	
	クライアント	有線LANと無線LANの両方を搭載したPCに、瞬快クライアント機能をインストールした場合、有線LANを無効にしなければ無線LANの情報が瞬快サーバに通知されない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	スケジューラ機能を使って、クライアントPCへ指示を出しても、指示通りに動作しない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	64bit の Windows7 に瞬快クライアントをサイレントインストールする際、SHA-2証明書に対応している更新プログラムが適用されているにもかかわらず、インストールが中断されてしまう。	サイレントインストールを行う場合は、SHA-2証明書に対応した環境かどうかを判定するための更新プログラム(KB3033929)の適用確認を行わないようにしました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	Windows7 x64に瞬快クライアントをインストールする場合、2015年4月以降の更新プログラムを必ず適用するようにしてください。
	クライアントインストール	1台のPCへ、瞬快コンソール、瞬快クライアントの順にインストールを行うと、リモート画面操作機能の画面転送を受信できない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	瞬快クライアント、瞬快コンソールの順にインストールを行ってください。	
	クライアントインストール	システムリカバリの[ディスクイメージ配信]もしくは[Windows環境の設定]の処理において、Windows 8.1に対して瞬快クライアントのサイレントインストールを行うと失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	なし	Windows 8.1以外のOSでは発生しません。
	システムリカバリ	システムリカバリコンソール起動時に、次のエラーが発生する場合がある。 ・SRO00095 設定ファイルの読み込みに失敗しました。環境をご確認ください。 ・SRO05123 環境設定ファイルの取得に失敗しました。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリサーバを再起動せずに長期間利用し続けると、システムリカバリサーバのデータベースが肥大化する。 これにより、イメージ配信等のサービス実行時に、「リクエストの開始命令の発行に失敗したか、サービスのパラメータエラーが発生しました。」というエラーが発生し、サービスが実行できなくなる場合がある。	システムリカバリサーバのデータベースサイズが閾値を超えた場合に、通知メッセージを表示させるようにプログラムを改修しました。 システムリカバリコンソールを起動したときに、次のメッセージが表示された場合には、メッセージに従いサービスを再起動させて下さい。 「システムリカバリサーバのデータベースが肥大化している恐れがあります。システムリカバリコンソールを終了させてから、システムリカバリサーバのDeployment Serviceのサービスを再起動してください。」	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	定期的にシステムリカバリサーバのDeployment Serviceのサービスを再起動させてください。	
	システムリカバリ	システムリカバリのサービスの設定において、「アクティベーションが失敗した場合に処理を停止する」のチェックを外している場合、サービス実行時にアクティベーションできない場合でも処理が継続されないといけませんが、アクティベーションできない場合には処理が継続せずにエラー終了してしまふ。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリコンソールを起動すると、次のエラーが発生する場合がある。 「C:\ProgramData\Syunkai Product\Console\Manage\Sro\client.csv へのアクセスは拒否されました。」	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	現象が発生した場合は、以下のファイルを削除して下さい。 C:\ProgramData\Syunkai Product\Console\Manage\Sro\client.csv	
	システムリカバリ	システムリカバリサーバと瞬快コンソールの版数が一致しない場合、システムリカバリのコンソール表示時 次のエラーが発生する。 「指定されたパラメータは正しくありません。引数が範囲外の値です。」 または、 「システムリカバリサーバとの通信が切断されました。システムリカバリ管理機能を終了し、再度起動してください。」	瞬快コンソールを起動したときに、版数チェックを行う処理を追加しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 上、特上	瞬快サーバ、瞬快コンソール、システムリカバリサーバの版数は必ず一致させてください。	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理において、更新プログラムの検索や適用に長い時間を要する場合があることで、5時間のタイムアウト時間では処理が終了しない事例が増えている。	WindowsUpdate連携のスケジュール作成時にタイムアウト時間を延長できるようにしました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	WindowsUpdate連携処理が5時間以内で終了するよう、クライアント環境もしくはWSUSにて調整してください。	
	スケジューラ	瞬快のスケジューラ機能で、同時に多数(100台以上)を同時実行した場合、Windowsが過負荷状態になり、スケジューラが正常動作しない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	同時に実行する台数を少なくしてください。	
	管理機能	瞬快コンソールの機器管理の一覧にて最新情報を表示した場合、クライアントPCが電源オフであるにもかかわらず、電源オンと表示されてしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11t以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.11v	瞬間復元ドライブ	Office 2013以降のボリュームライセンス製品を除く全てのMicrosoft Office製品では、Officeの自動更新が、Windowsのタスクに登録された「Office Automatic Updates」により自動的に実行されるようになっているが、ファイル・フォルダ単位の修復モード中に、このタスクが動作してOfficeに更新がかかると、更新内容によってはOfficeファイルの管理情報に異常が生じ、Officeファイルが開けなくなる。	クライアント機能を新規インストール時に、タスクスケジューラに「Office Automatic Updates」が登録されていればタスクを無効化させるように修正しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	タスクスケジューラから「Office Automatic Updates」を無効にして下さい。	
	瞬間復元ドライブ	UEFI設定時のブートイベントとしての Windows Boot Manager(WBM) が複数登録されたような異常な環境において、修復モードへの切り替えを行うとPCが正常起動しなくなる場合がある。	異常なWBMをスキップするようにし、PCが正常起動されるように修正しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	複数のWBMが登録されている場合は、bcdedit.exe /delete コマンドでWBMをすべて削除した後、次のコマンドを実行し、正常なWBMを登録してください。 bcdboot.exe c:\Windows /L ja-jp	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用を続けていると、「ファイルシステムの異常を検知しました」のエラーが表示される場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	動作モードを修復モードへ変更した際に、次のような状態になりOSが起動しなくなる機種がある。 【レガシーブートの場合】 OS起動中の黒画面時、画面左上にてカーソルが点滅する状態になる。 【UEFIブートの場合】 OS起動中の黒画面時、画面中央に「Cannot load PreparationOfBootOS」のメッセージが表示される。	【レガシーブートの場合】 ファームウェアの問題を回避し、起動処理を止めないようにプログラムを改修しました。 【UEFIブートの場合】 ファームウェアの問題を回避する設定を可能としました。設定方法については、サポートセンターまでお問い合わせください。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	瞬快クライアントインストール後、修復無効モードにてプリフェッチ・スーパーフェッチの設定を変更しても、修復モードにすると瞬快標準設定に戻されてしまう。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	なし	
	コンソール	瞬快コンソールにおける機器一覧の表示において、IPアドレスが127.0.0.1となるPCがある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	画面補正機能が動作しないアプリケーションが存在する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11u以前 【グレード】 共通	なし	
	Ver.11v+	瞬間復元ドライブ	レガシーブートのOS環境にVer.11vをインストールして修復モードにする場合、機種によっては、次の様な画面表示にて停止し、OS起動しなくなる。 ・黒画面にてカーソルが点滅 ・機器メーカーのロゴ画面 ・「Windows を起動しています」の画面	プログラムを改修しました	【レベル】 Ver.11vのみ 【グレード】 共通	なし
Ver.11w	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにするとAdobe Creative Cloud が起動できない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	次のフォルダを修復対象外に設定してください。 【32ビットOS】 C:\ProgramData\Adobe\SLStore\F C:\Program Files\Commo Files\Adobe\SLCache\F C:\Program Files\Commo Files\Adobe\OOBE\F 【64ビットOS】 C:\ProgramData\Adobe\SLStore\F C:\Program Files (x86)\Commo Files\Adobe\SLCache\F C:\Program Files (x86)\Commo Files\Adobe\OOBE\F	
	瞬快サーバ	瞬快サーバが利用しているMicrosoft SQL Server 2008 R2 Express EditionのMicrosoft社のサポート期限が2019年7月で切れる。	瞬快サーバを新規インストールした場合は、Microsoft SQL Server 2014 Expressがインストールされます。 従来の版数から瞬快サーバを版数アップした場合は、引き続きMicrosoft SQL Server 2008 R2 Express Editionが利用されます。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	
	インストーラ共通	1台のPCに、瞬快クライアント、瞬快コンソールの順でインストールを行い、瞬快クライアントだけをアンインストールすると、リモート画面操作の画面転送機能が動作しない。 また、1台のPCに、瞬快コンソール、瞬快クライアントの順でインストールを行い、瞬快コンソールだけをアンインストールすると、リモート画面操作のクライアント機能が動作しない。(他のPCからのモニタリングや遠隔操作などができない)	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	瞬快クライアントまたは瞬快コンソールの機能を再インストールしてください。	
	クライアント	sha256のデジタル証明書に対応した更新プログラムがWindows 7 x64に適用されているかをチェックする処理に問題があり、正しく判断できていなかった。このため、sha256のデジタル証明書に未対応のWindows 7 x64に瞬快クライアントをインストールできてしまい、OS起動ができなくなる場合がある。	sha256のデジタル証明書に対応した更新プログラムがインストールされているかの判断ロジックを改修しました。 sha256のデジタル証明書に未対応の場合は、瞬快クライアントのインストールを中断します。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	2015年03月に公開された、KB3033929の更新プログラムを適用する、またはKB3033929の更新プログラムが含まれる累積的な更新プログラムを適用してください。	
	クライアント	Ver.11uでは、修復モードの状態が6ヶ月以上が経過すると通知領域アイコンに異常が生じるというOS仕様に対する暫定対策を施したが、これにより通知領域アイコンのカスタマイズができないという制限事項が生じている。 また、修復モードへの変更時にログオン中のユーザーでは当該暫定対策が無効となる。	レジストリにキャッシュされている通知領域アイコン情報をクリアすると一時的に暫定対策を中止し、代わりにキャッシュの有効期限を120ヶ月に変更することで、制限解除と問題解消を図りました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	リモート画面操作機能の複数PC操作のコンソールを高さ115ドット以下のサイズにした状態で終了させると、次回複数PC操作起動時にモニタリングができない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	スタートメニューから複数PC操作を起動した場合、ポリシー設定を「報告IPアドレスを利用して接続する」設定にしているにも関わらず、「ネットワーク設定を利用して接続する」設定の動きをする場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	コンソール	瞬快コンソールの設定で、「報告IPアドレスを使用する」に設定にしているも、クライアントPCからの通知が一定期間無いと報告IPが使用されず、リモート画面操作機能がクライアントPCに接続できない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	
	共通機能	メール送信機能にて smtp.gmail.com を指定できるようにしました。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11v以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.11w+	リモート画面操作機能	キーボード・マウスロック処理において、特殊キー操作([Ctrl]+[Alt]+[De])および([Win]+[L])のロックができない。 OSのシステムイベントに dckfltr.sys のエラーが記録される。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11wのみ 【グレード】 共通	なし	64bit環境のみが対象です。
Ver.11x	瞬間復元ドライブ	UEFI設定のPCのクローニングにおいて、クローニング先のPCに既に瞬快クライアントが修復モードに入っていた場合、ディスク全てのクローニングをせずにパーティションだけをクローニングすると、MBR領域に瞬快の情報が残っているため、修復モードに変更できない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	事前に修復無効モードに切り替えてから、ディスクイメージを戻してください。	
	瞬間復元ドライブ	ファイル・フォルダ単位の修復モード時、オンラインストレージサービス DropBox のデスクトップアプリにて新規フォルダを登録すると同期エラーが発生する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	なし	本対応後も、デスクトップアプリにてDropBoxフォルダを開いた状態で、WebブラウザにてDropBoxにログインしてファイル更新を行った場合、DropBoxフォルダの情報は最新状態に更新されません。 この場合、DropBoxフォルダを閉じて開きなおすと、最新状態にて表示されます。
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携機能にてUpdateサイトにWSUSを指定せず、マイクロソフト社を指定した場合、Office等のオプションパッチが適用されない場合がある。	WindowsUpdate連携機能の開始時に、Microsoftアップデートを必ず有効化(「Windowsの更新時に他のMicrosoft製品の更新プログラムも入手します。」の有効化と同意)して、Office等の更新プログラムが適用されるようにしました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	瞬快クライアントをインストールする前に、Windows Updateの設定にある「Windowsの更新時に他のMicrosoft製品の更新プログラムも入手します。」を有効化してください。	
	サーバ機能	Windowsのグループポリシー設定における「パスワードの長さ」を12文字以上に設定している場合、瞬快サーバ機能のインストールに失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	Windowsのグループポリシー設定における「パスワードの長さ」を11文字以下に設定してください。	
	システムリカバリ	システムリカバリコンソール起動時にアプリケーションエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 上、特上	なし	
	リモート画面操作機能	単一PC操作の処理中にネットワークが切断された場合、自動再接続されないため、手動での再接続操作が必要となる。	単一PC操作に、自動再接続機能を搭載しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	ウイルスバスターコーポレートエディションのファイアウォール機能には問題があり、これが有効になっている場合は初回のUDP通信がブロックされるため、リモート画面操作でのクライアント接続に失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	ウイルスバスターコーポレートエディションのファイアウォール機能を無効にしてください。	
	利用情報収集機能	PCが正常にシャットダウンされなかった場合、利用情報収集機能にて収集される稼働時間が実際の稼働時間と異なる。	稼働状況を1分間隔で監視し、強制シャットダウンされた場合でも、稼働時間の誤差が1分未満になるようにしました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集機能	選択したグループに数百台のクライアントPCが含まれている状態にて、「ソフト確認」ボタンを押しソフトウェア情報を収集すると、瞬快コンソールのアプリケーションエラーが発生する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11w以前 【グレード】 共通	収集対象となるクライアントPCの台数が少なくなるようにグルーピングしてください。	
Ver.11y	コンソール	マルチブート環境において、瞬快コンソールから「電源(ONOS指定)」を実行する際、1番目のOSを指定するとエラーが発生する。 また、2番目以降のOSを指定すると、1つ前のOSが起動する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11xのみ 【グレード】 上、特上	なし	
	コンソール	管理コンソールの機器一覧にて、「前回起動日時」および「前回終了日時」の列が空欄で表示される。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	クライアントにメインモニタより解像度の高いサブモニタを接続し、サブモニタをメインモニタより右もしくは下に配置すると、クライアントにブラックアウトの指示を出した場合にブラックアウトされない領域が発生する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	リモート画面操作機能のコンソールにてレイアウト表示している場合において、表示サイズを100%以外に設定すると、表示枠とクライアントPC側ディスプレイのアスペクト比が合わず、表示枠の上下もしくは左右に余白が表示されてしまう。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モード時、9文字以上のアカウント名にてログオンした場合に次のような事象が発生する。 ・Office365 を起動できない。 ・ストアアプリ版の Power2Go (CyberLink社製) を起動できない。 ・Firefox等のブラウザより Adobe Acrobat ReaderDC を使ってPDFファイルを開けない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	UEFI環境におけるディスクイメージの配信において、配信先の瞬快クライアントの動作モードが修復モードもしくは更新モードである場合、パーティション構成の異なるディスクのイメージを配信すると、瞬快クライアントの動作モードを修復モードもしくは更新モードに変更したタイミングにて、パーティション構成が配信前の状態に戻ってしまう。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 上、特上	ディスクイメージ配信前に、配信先の瞬快クライアントの動作モードを修復無効モードに切り替えてください。	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	スケジューラ	実行種別が「即時実行」または「1回のみ」のスケジューラが開始された場合、処理が成功しているにもかかわらず実行結果が「タイムアウト」となる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	スケジューラの画面にて、スケジューラ開始から10分以内に F5 キーを押して情報を最新化してください。	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の実施において、処理の途中にキャンセル指示を出していないにもかかわらず、キャンセルされてしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11x以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.11z	コンソール	機器一覧の1列目に表示されているOS状態アイコンの色表示において、クライアントPCを電源オフにしても、OS起動済状態を表す「青」から電源OFF/スリープ状態を表す「黒」に変わらない。	プログラムを修正しました。	【レベル】 Ver.11y 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードでは、Microsoft VisualStudio にて作成したソリューション名に全角アルファベット大文字が含まれる場合、ソリューションのビルドを行った際にソースが見つからない旨のエラーとなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	ソリューション名に含めるアルファベットは半角英文字を使ってください。	
	瞬間復元ドライバ	ラネクシー社製 MylogStar 3 がインストールされた環境にてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、MylogStar 3 が正常動作しない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Favoritesフォルダにショートカットをコピーした後、InternetExplorerのお気に入りメニューを開くと、メニュー内にお気に入りのショートカットが表示されない場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	MBRにRel.8.0以前の瞬快の情報が残っている環境において、瞬快Ver.11yクライアントがインストールされた状態にすると、修復モードへの変更時にエラーが発生して修復モードに変更できない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11yのみ 【グレード】 共通	瞬快クライアントを一旦アンインストールした後、製品DVDのTOOLフォルダに格納しているchikmbr.exe コマンドに /clear のオプションを付けて実行してください。	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、既存のフォルダと同じ名前のファイル(同一ドライブ内に既存もしくは新規作成したもの)を、当該フォルダの場所に移動しようとし、その際の上書き指示を付加していると、当該フォルダがゼロバイトのファイルとなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	瞬快サーバに2048台を超えるクライアントPCを登録した場合、システムリカバリコンソールを起動すると、起動時に「異常終了しました。」のエラーメッセージが表示され、クライアントPCが表示されない。	台数制限を設け、2048台を超えるクライアントPCが登録される場合にはシステムリカバリコンソールを起動できないようにしました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 上、特上	なし	1サーバに登録するクライアントPCの台数は2048台以下としてください。
	クライアント	最近のHP、TOSHIBA、EPSON、VAIO、INTEL、Microsoft各社のUEFI機においては、修復モードにする際のブートエントリの登録が正常に動作しないことがあり、これを回避するためにはNotUseUefiBootMenu のレジストリを事前セットの上、機能制限方式を選択する必要がある。	NotUseUefiBootMenu のレジストリをセットしなくても機能制限方式を選択するだけで、エラー終了とならずに修復モードに変更できるようにしました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	なし	問題の詳細につきましては、瞬快のWebサイトを確認願います。
	クライアント	瞬快クライアントのパスワードを変更する際、変更前と変更後のパスワードの違いが、アルファベットの太文字と小文字のみである場合、変更内容が反映されない。 【例】pass→PASS	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	先に、太文字と小文字以外が異なるパスワードに変更してから、目的のパスワードに変更してください。 【例】pass→pass1→PASS	
	クライアント	クライアント機能の環境設定画面にある「修復対象・対象外設定」のインポート機能において、修復対象が入れ子になった設定を正しくインポートできない。 【例】 次の設定をインポートすると、PATH3が反映されない。 [PATH] PATH1=1C:¥ PATH2=0C:¥DATA¥ PATH3=1C:¥DATA¥SUB¥	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.11y以前 【グレード】 共通	なし	